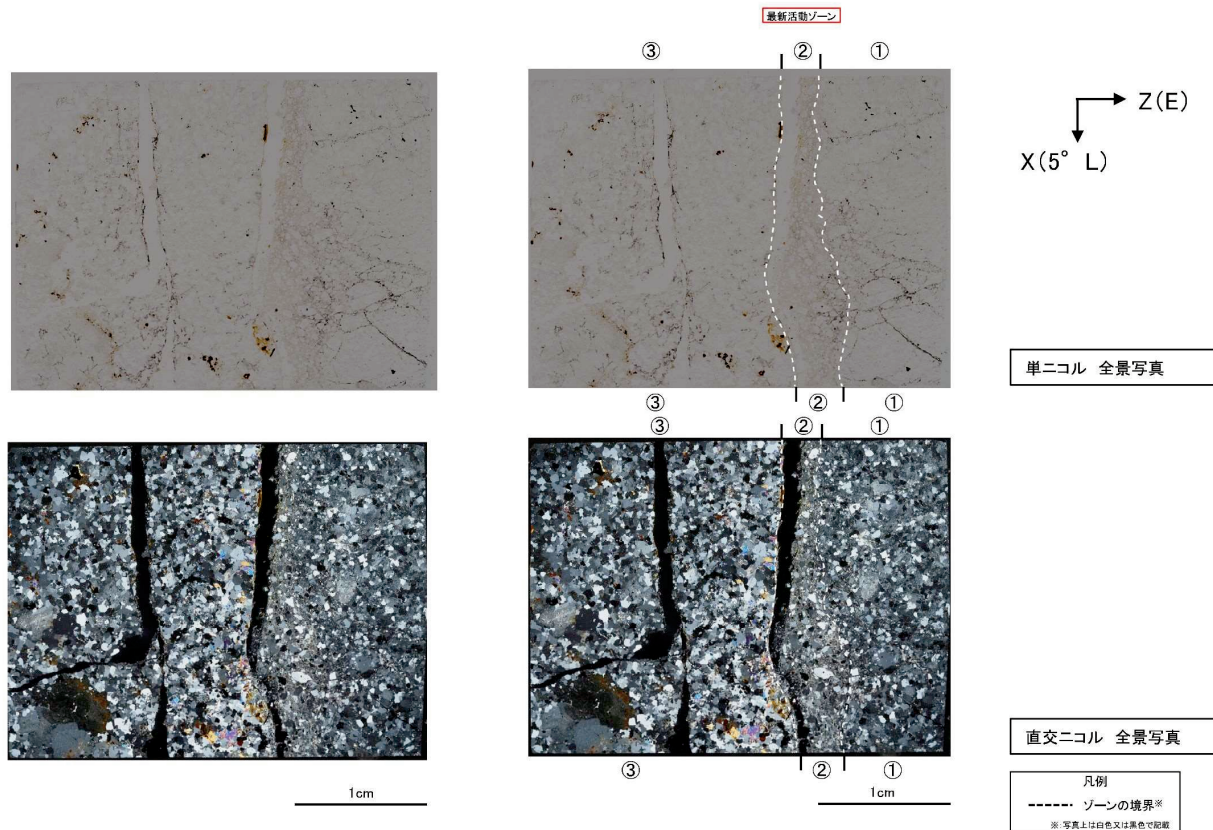


H27-B-4 深度108.44~108.71m 最新活動面の深度 (No.最-32) を変更

H27-B-4 深度108.44~108.71m 薄片観察 分帯

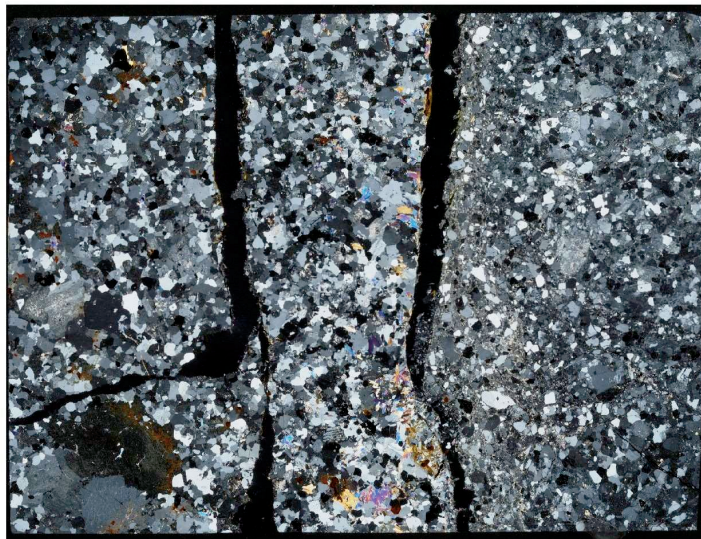
- ・①のゾーンは、粘土鉱物の量は少なく、粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は②のゾーンよりも多く、角ばっている岩片が多い。
 - ・②のゾーンは、粘土鉱物の量は少ないがゾーン①より多い。粘土鉱物の定向配列は認められない。岩片は多く、角ばっている岩片が多い。
 - ・③のゾーンは、健岩部である。
- 以上のことから、細粒化が最も進んだ②のゾーンを最新活動ゾーンと認定した。



H27-B-4 深度108.44~108.71m 最新活動面の深度 (No.最-32) を変更

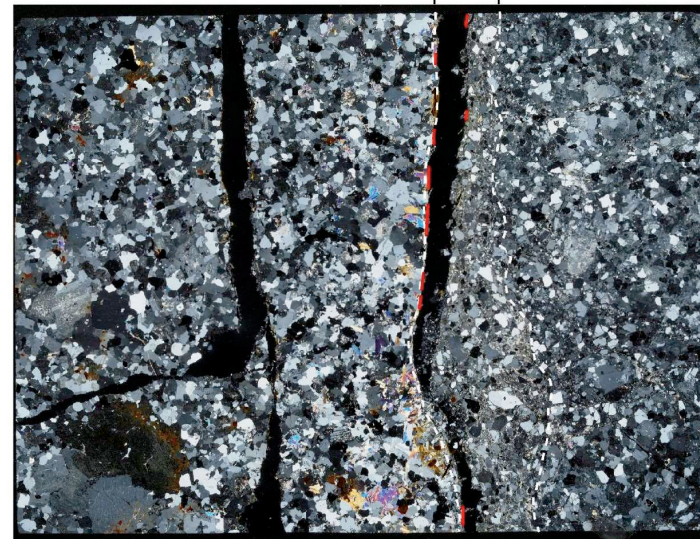
H27-B-4 深度108.44~108.71m 薄片観察 最新活動面の認定

- ・深度108.44mにおける断層面 α 沿いの最新活動ゾーンでは、他の構造に切られていないY面Aが認められる。その分布を以下に示す。
- ・Y面Aは連続性に乏しく、直線性にやや富む。細粒部を伴う。他に面が見られない。
- ・他に明瞭なせん断面が見られないことから、Y面Aを最新活動面と認定した。
- ・なお、断層面 α 沿いの最新活動ゾーンは、断層面 β に比べてY面の連続性・直線性に乏しいことから、本破砕部の最新活動面としては、断層面 β を認定する。



直交ニコル 全景写真

1cm



直交ニコル 全景写真

1cm

Z(E)
X(5° L)

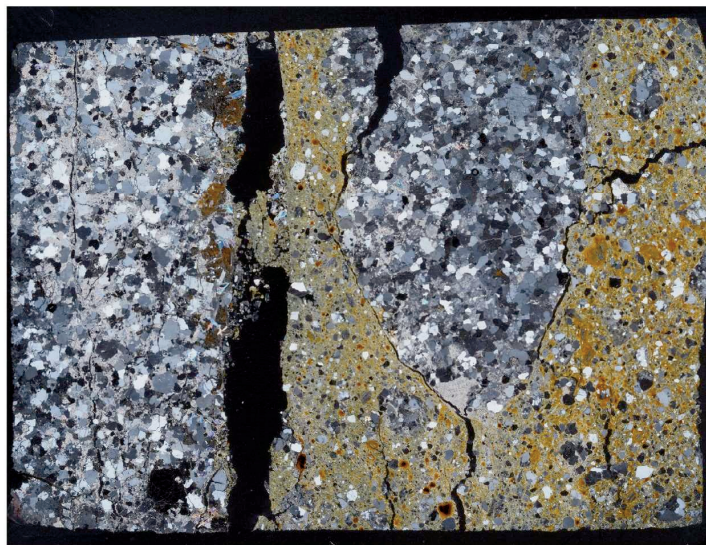
凡例
 — Y面A
 - - - 最新活動ゾーン※
 ※写真上は白色又は黒色で記載

※Y面は確実に認定できる部分のみを記載しており、割れ目や不明瞭箇所では記載していない

H27-B-4 深度108.44~108.71m 最新活動面の深度 (No.最-32) を変更

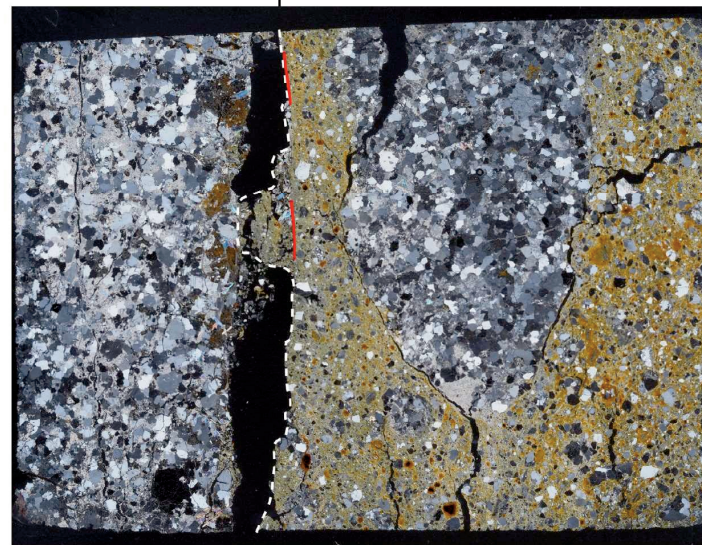
H27-B-4 深度108.44~108.71m 薄片観察 最新活動面の認定

- 深度108.71mにおける断層面β沿いの最新活動ゾーンでは、他の構造に切られていないY面Aが認められる。その分布を以下に示す。
- Y面Aは連続性に乏しく、直線性に富む。細粒部を伴う。他に面が見られない。
- 他に明瞭なせん断面は見られないため、Y面Aを最新活動面と認定した。
- なお、断層面βは、断層面αに比べて、最新活動ゾーンの細粒化が進んでいることから、断層面βを最新活動面として認定した。

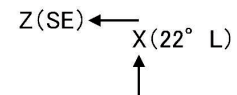


直交ニコル 全景写真

1cm



直交ニコル 全景写真



最新活動ゾーン

- 凡例
- Y面A
- - - 最新活動ゾーン※
- ※: 写真上は白色又は黒色で記載

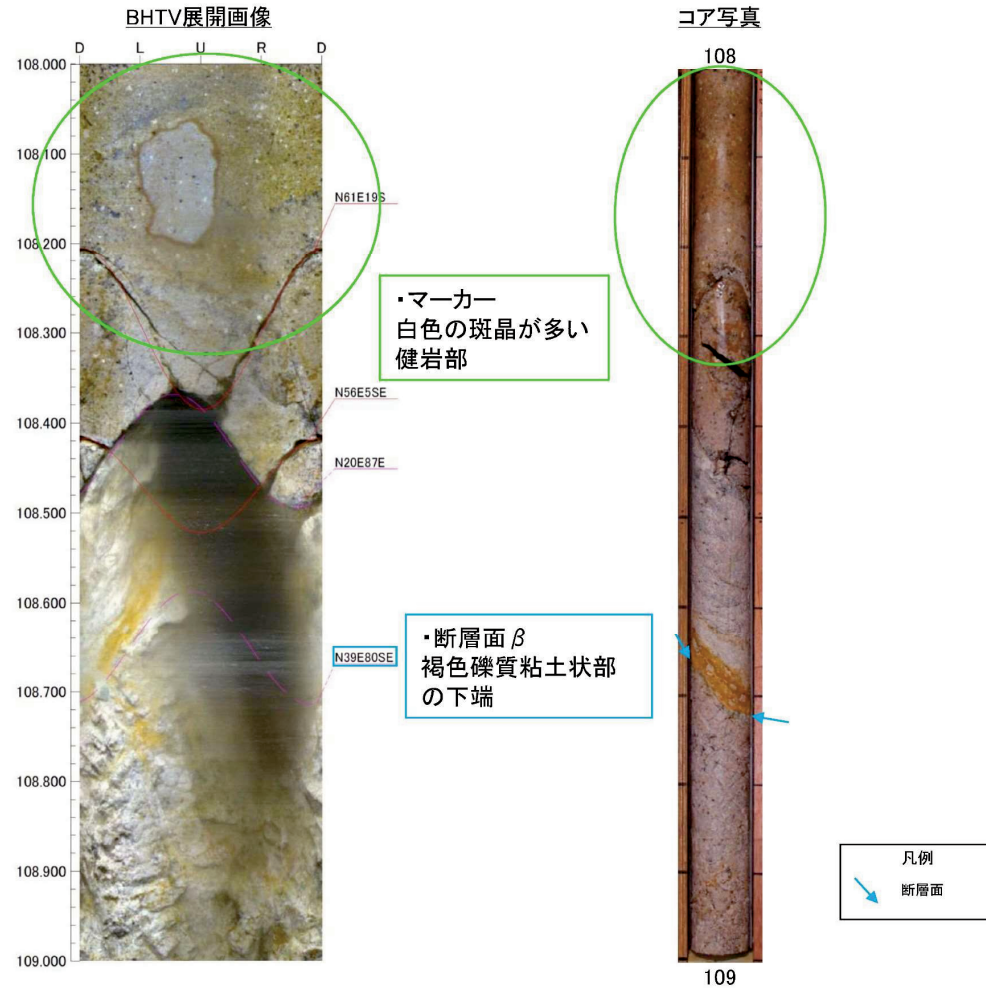
1cm

※Y面は確実に認定できる部分のみを記載しており、割れ目や不明瞭箇所では記載していない

H27-B-4 深度108.44~108.71m 走向・傾斜 (No.最-33) を変更

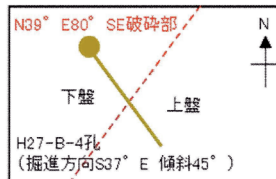
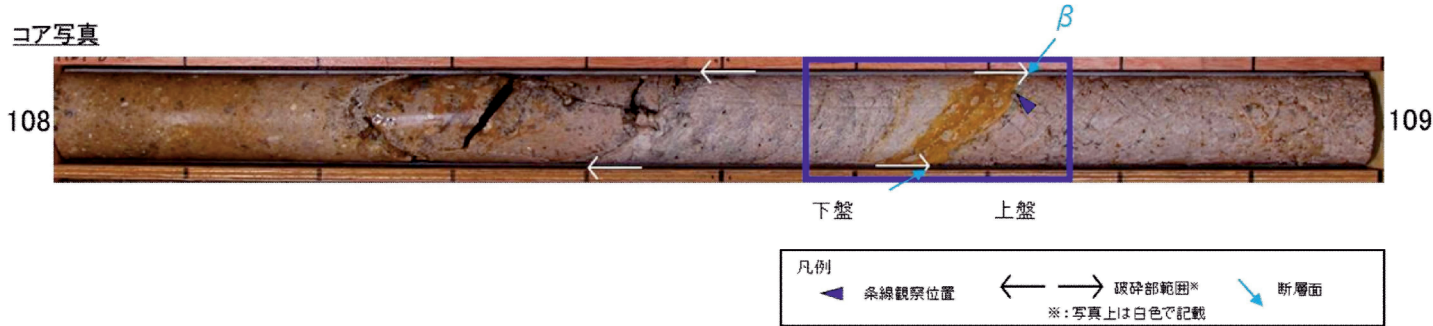
ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H27-B-4 深度108.44m~108.71m)

・ H27-B-4 深度108.44m~108.71mの破砕部の断層面 β の走向・傾斜はN39° E80° SEである。



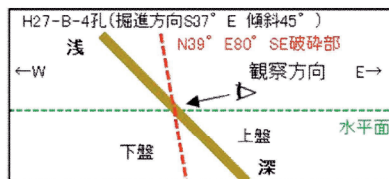
H27-B-4 深度108.44~108.71m 条線 (No.最-34) を変更

- H27-B-4 深度108.71mの断層面の走向・傾斜がN39°E80°SEであり，条線観察は上盤側から実施している。



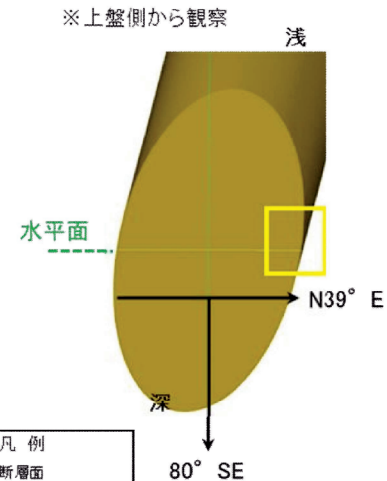
- ボーリングは掘進方向S37° E, 傾斜45° で掘削している。
- 破砕部の走向・傾斜はN39° E80° SEであり，ボーリングと破砕部の平面的な位置関係は左図のようになる。
- 破砕部は南東傾斜であることから，南東側が上盤，北西側が下盤となる。

図1 H27-B-4孔位置平面図(模式図)



- ボーリング(掘進方向S37° E, 傾斜45°)と破砕部(走向・傾斜N39° E80° SE)をボーリング孔沿いの断面図で示すと左図のようになる。
- ボーリング孔の浅い側が下盤，深い側が上盤となる。

図2 H27-B-4孔を通る断面図(模式図)



※図2で示した観察方向から，最新活動面に正対して描いた3次的な図

図3 最新活動面と走向・傾斜の関係図